

健康科学科・教育研究上の目的及び3つのポリシー

教育研究上の目的

スポーツ・健康科学部健康科学科は、生命の尊厳に基づいた生活の質を理解し、医療と保健の幅広い分野で国民の健康づくりに貢献できる人材の養成を目的とする。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

健康科学科は、卒業に必要な単位を取得し、以下に示すような能力を備えていると認められる学生に、卒業の認定を行い、学士（健康科学）の学位を授与する。

1. 豊かな教養と専門的知識およびそれを活用する技能

- (1) 社会人として高いモラルと教養を有し、臨床検査学、食品科学、環境科学分野を含む健康科学に関する専門知識や技能を総合的・学問的に理解している。
- (2) 健康科学に関して修得した知識や技能を活用し実践的に役立てることができる。

2. 他者との共同による問題発見・解決能力と、それを支える思考・判断・表現力

- (1) 健康科学の現場の様々な課題に対して、健康科学に関連する手法を用いて考察することができる。
- (2) 学問研究を支える基礎的な知識と技能、高い教養と幅広い視野を活用し、協同して社会的課題を解決できる。
- (3) 批判的思考（クリティカル・シンキング）を通して自分の意見を論理的に表現することができる。

3. 自律的学習者として学び続け、社会に貢献する意欲と能力、社会の担い手としての使命感

- (1) 健康科学に関する課題を探究し、主体的・継続的に学修することができる。
- (2) 医療と保健の幅広い分野で国民の健康づくりに貢献するために、与えられた課題に対して、さらなる向上心や責任感を持って対処することができる。

4. 本学の建学の精神や本学の理念に対する理解

- (1) 教養と高い倫理性を備え、グローバルな視野で異文化を理解し、課題を見つけて協同することができる。

教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

健康科学科は、卒業認定・学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成する。そして、本学の教育理念に基づき、医療・保健・健康マネジメント・科学教育の分野のスペシャリストを育成する。

1. 教育内容

- (1) 基礎教育科目・語学では、必修科目の生命倫理学、英語 A/B、および人文・社会系の全学共通科目（自由科目）を通じて、生命の尊厳に基づく倫理性、国際性、社会性を学ぶ。
- (2) 専門教育科目では、健康科学のエキスパートとして科学的な思考力と判断力を養成するための生化学 A、生理学、分子生物学の必修科目に加えて、さらに免疫学、血液学、病理学などの基礎医学領域から臨床医学総論、臨床病態学 A, B などの臨床医学領域に及ぶ科目についての講義・演習・実習の履修を通して、実学的かつ実践的な能力を育成する。
- (3) 初年次においては、基礎科学、基礎生物学、化学、健康科学基礎演習などのリメディアル科目にお

いて、健康科学を学ぶために必要な学習スキルを学ぶ。

資格関連科目として、臨床検査技師資格取得、食品衛生管理者、食品衛生監視員、第二種作業環境測定士などの 4 つの資格に関する専門科目を配置し、各学生が自らの希望・選択する分野でより専門的履修が行えるよう教育課程を設定する。

2. 教育方法

- (1) 主体的な学びを促進するために、専門科目における各種の演習授業・実習授業を通して問題解決型のアクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を採用する。
- (2) 3, 4 年次においては、少人数制によるゼミの履修を積極的に促進し、インタラクティブな教育を実施する。

3. 評価方法

- (1) 学位授与方針で掲げられた能力の形成的な評価として、健康科学科における卒業要件達成状況、単位取得状況、GPA、外部客観テスト等の結果によって測定するものとする。
- (2) 学位授与方針で掲げられた形成的評価として、毎学期、学年担任制およびゼミ担当教員による個人面談を実施する。
- (3) 4 年間の総括的な学修成果として、ゼミ履修者の卒業論文の評価を行う。
- (4) 国家試験受験者に関しては、4 年間の認知領域の学修成果として、国家試験の結果によって測定するものとする。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

健康科学科は、教育研究上の目的、学位授与方針、教育課程の編成・実施に基づき、以下の能力を備えた受験生を各種選抜試験によって受け入れる。

1. 知識・技能

- (1) 入学後の修学に必要な基礎学力を十分有している。
- (2) 豊かな人間性と深い学識を持って現代社会の様々な健康問題に対する課題の解決に努力することができる。

2. 思考力・判断力・表現力

- (1) 獲得した知識や情報を基に自分の考えが的確であるかどうかを判断し、文章や発話によって正確に表現し、伝えることができる。
- (2) 課題に対して多面的かつ論理的に考察することで、より良い解決の手立てを思考し、結果を予測しながら実行することができる。

3. 主体的に学習に取り組む態度

- (1) 臨床検査学、食品科学、環境科学分野を含む健康科学に強い関心を有している。
- (1) 健康科学に対して自ら学び発展しようとする高い勉学意欲を持ち、持続可能な社会づくりに向けた態度と社会貢献への使命を持ち得ている。

アドミッション・ポリシーと各入学選抜試験との関連について

入試方式	選抜方法	アドミッション・ポリシー		
		知識・技能	思考力・判断力 ・表現力	主体的に学習に 取り組む態度
		AP1	AP2	AP3
一般選抜 (大学入学共通テスト 利用入試 (前・中・後))	大学入学共通テスト	●		
一般選抜 (全学部統一入試 (前・後))	学力試験 (国・英)	●		
一般選抜 (3教科)	学力試験	●		
一般選抜 (英語民間試験活用 総合評価入試)	英語民間試験 小論文	● ●	●	●
総合型選抜 (自己推薦 (専願型))	自己推薦書 基礎学力テスト 面接	●	● ●	● ●
学校推薦型選抜 (指定校) (スポーツ)	調査書 面接	●	●	●
学校推薦型選抜 (公募制)	基礎学力テスト 面接	●	●	●
特別選抜試験 (社会人・留学生)	小論文 面接	●	● ●	● ●